

目的 才ノ報の調査対象を地方別に分類し、主婦の家事労働時間について、各地方間に差があるかを見ようとした。

方法 才ノ報の調査資料について、全国を北海道・東北・関東・北陸・東海・近畿・中国・四国・九州の9地方に分類し、都市・農村別及び平日・休日別に生活時間の集計を行った。又、都市については主婦の職業別に無職・内職・勤労に分類し、農村については農家(専業・兼業)と非農家に分類し、集計を行った。

結果 主婦の家事労働時間は、都市においては平日北陸地方の6時間1分が最も短く、北海道地方の7時間2分が最も長い。農家では、北陸地方の3時間35分が最も短く、最も長い四国地方の4時間52分の間にある。その広がりも都市の1時間1分に対し、1時間20分と長くなっている。農村の非農家は、北陸地方の4時間24分～九州地方の6時間4分の間で、ほぼ都市と農家の中間であるが、その広がりも2時間20分と最も長い。都市・農家・非農家共に、平日における家事時間の最も短いのが北陸地方であった。これについて有意差検定を行ってみた結果、都市部では、北陸地方は中国地方を除く他の7地方との間に、1～5%で有意差が認められた。しかし、農家及び非農家の場合には、都市の如き顕著な傾向が有意差に現われなかった。

休日についても、平日に準じて同様の検討を行った。